

寶治御百首

上

和書門			
二五六三七	六	三	七
二〇八	一	六	三
二册	架	函	號

267

內閣文庫			
二〇八	二五六三七	二	和書
二册	架	函	號

內閣文庫			
番號	和	25637	
冊數	2 ( 1 )		
函號	201	267	

201-267



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



歲時百首

題

春二十首

歲中立春

朝暈

梅薰風

若草

初花

惜花

松上履

山霞

沃若菜

行路柳

春月

見花

落花

暮春

春雪

餘寒

春雨

歸雁

桃花

籬歎冬

和學講談所

淺草文庫

501-501

夏 十首

首夏

待子規

同郭公

早苗

溪月雨

夏草

夏月

水色螢

夕立

六月板

秋 二十首

早秋

乞巧奠

秋風

秋夕

秋夕

初雪

秋田

夜涼

曉虫

山月

湖月

野月

後月

庭月

閑露

同搗衣

重陽宴

杜秋葉

河秋葉

九月尽

秋 十首

初冬時雨

落葉

寒草

淺雪

積雪

池冰

豐明節會

冬月

深千雪

歲暮

冬 二十首

寄月夜

寄雲

寄雨寒

寄凡恋  
寄院恋  
寄濠恋  
寄虫恋  
寄玉恋  
寄衣恋  
寄烟恋  
寄原恋  
寄木恋  
寄多恋  
寄院恋  
寄与恋  
寄国恋  
寄招恋  
寄草恋  
寄熟恋  
寄枕恋

雜二十首

曉雞  
里竹  
忌篠  
夜灯  
残藪  
江芦  
炭松  
島雀  
浦松

杪山  
山家嵐  
旅者  
寄社祝  
岸苔  
田家雨  
旅泊  
寄日祝  
山家水  
旅行  
涉眺亭

作者

御刻 後醍醐

道助法親王 仁和寺宮

從一位臣藤原朝長實氏

前大政大臣實升廣  
又号西園寺法名實室

正三位左大臣藤原朝長基家

後九条前内大臣号龜殿

家良

前内大臣号衣笠

基良

前權大納言西二位

正三位行持大納言左大臣藤原朝長隆親

正三位左大臣藤原為家

法名融光  
中亮大納言

正三位持大納言左大臣藤原朝長公相

正三位行持大納言左大臣藤原朝長實雄

山階左大臣  
小倉祖

正三位行中納言臣藤原朝長為經

号吉田

親貞觀

入及光俊朝長

涉弥寂西

信名及信實朝長

從四位上行左大臣權大納言藤原朝長經朝

号世尊寺  
後三位

從四位上左大臣藤原朝長行家

号九条  
建治元年

日吉祐直從四位上左大臣後守禮部省藤成茂

從四位正五位下左大臣藤原朝長隆祐

沙弥禅信

源信平

安嘉門院高人君

春司院松窓下

春司院帥

兼明院小宰相

俊成に女

藤原門院也る

下野

右細字初考し書加し

春内百首

春二十首

春内之春

一とちとわきそ若わらみふあつさびる日敷のまにきり  
 御製  
 新玉の<sup>し</sup>やいりむさうのまふかえりまにきり  
 道助  
 君うよれちとせよあまる下とやまふかえりまにきり  
 実氏  
 大元ハまこをるもりりまよとせとやまにきり  
 基夜  
 くれのらる日敷もまにきり新玉のまにきり  
 やまのまにきり  
 家良  
 下りといハ云中成日敷もまにきり  
 基良  
 年の内もまにきり  
 やまのまにきり  
 基良  
 陸親

あさむらとけふかひいしるの月よくとまきふくまの このあ 為友

ゆちる月日のねにいとせか二なるまきうりまらりりなる 公相

自の月をの目ねにめるたま自とやいらむまきふくまなり 実雄

新玉の年ハまのゆふうくねとあそまきのとまきふくまなる 為佳

く春も君うあそやうそくんとまきふくまなり 真観

かろあれにねめりるゆるとやといらしるまきふくまなり 年西

いらのまたたたりしきと新玉のゆとあそまきふくまなり 経朝

ゆちよまきふくまなりゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆち ゆち 行家

かろくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく ゆち 成茂

新玉の年もいとねまきふくまのとりうるまきふくまなり 隆祐

新玉の年とこあそまきふくまのしるまきふくまのあそまき ゆち 禅信

新玉のゆにりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり ゆち 高岩

まきふくまのゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 松葉

大いりまきふくまの年とこあそまきふくまのゆとあそまき ゆち 柳

まきふくまのゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 小宰相

この君のゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 俊成女

新玉のゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 但る

あそまきふくまのゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 下野

山吹

いかにまきふくまのゆとあそまきふくまのゆとあそまきふくまの ゆち 卯製

ちりちりてしるのれぬくそのも **道助**  
海しり着のれもく **実氏**  
いさる山のいさるも **基良**  
おまき今しるる **基良**  
左の山まの斗の情 **基良**  
浅みとりまの **隆紀**  
りりりと天く **隆紀**  
みりし **公相**  
まらる **実雄**  
いし **為絶**

ま **真観**  
相 **洋西**  
秋 **行朝**  
と **行旅**  
さ **成茂**  
西 **隆祐**  
ま **隆信**  
お **実若**  
時 **梅森**  
山の **師**







白名れ吉すいれさもれさえてもききとけぬきもの工名 実雄  
谷の千はゆるあさけのあすよりききとけぬきもの工名 為郎  
せにおきとくれしとくじいさのふきまうもくろりさのなる色 古親  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 岸西  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 経朝  
らさにおきとくれしとくじいさのふきまうもくろりさのなる色 行家  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 成茂  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 陸祐  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 禪信  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 高倉

花もまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 桜下  
よとこちくもききとけぬきもの工名 師  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 小巻  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 佐藤  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 恒る  
あまのまじりすとこちくもききとけぬきもの工名 下野

深若菜

年をてはさのまはれいふりうらとてあるとひ神りし御製  
市はは一の水もとけそめてこちくもききとけぬきもの工名 助  
里人の山田のほま神をれてとけそめてこちくもききとけぬきもの工名 実成







さびしうちれる梅の白かよらの村ぬはみりふり  
足もこねんとや福く梅くどあうと所やらあのかん 岸西  
白あねのよるともこりねれりうりゆとよあうの宿の 河羽  
くちやちのものまゆゆまをて白こりねぬ梅乃下風 行成  
新ハ成ゆて乃梅のゆきしうものうふれともゆを 成茂  
梅くを成神よにさきまきてあうよふしきそまの 隆祐  
梅のむ白あねにもとりれりうりゆを初めさうこりぬ 禪信  
あむさきそやういあやるれ白あに風のさうこりぬ 善若  
さくもけきそやういあやるれ白あに風のさうこりぬ 梅宗  
さきまふたあう厚夜此梅も白いさるるさき風を吹 帥

梅もさきこのて吹風ハクテうありれとあそ先んれ 小宰相  
成てこれりと白あ梅くのさきこりゆやびりぬ 俊成女  
かそるる風とさういあやるれ白あに風のさうこりぬ 但馬  
吹風の白と人まきともりるさうくれの梅のさうい 下野

行海柳

玉様のなるふれくよそをいといよりそこつるさ柳のいと所製  
乃のやあるの梅乃ま風とをめらうふといつれよりらむ 乃助  
乃の北に梅やうてあひまきたまきこりゆよ風を吹 善成  
乃のよそちてあうこり梅のうみさひゆせとらあや柳あ 基成  
こくもさし川そい柳もえわねんさあてやあふまきの旅人 家良

おるひまきちりりくわいのしほはていへるしほの柳のいと 基良  
るや下て行ての葉はあたこつぬるくくはら柳のいと 階就  
あさみとうまうちあてりりり柳の陰あひたらしもいあめよる家  
さぶつら後のとらうりうけつ川そひ柳を風そめく 云相  
お母この乃ちりよよらうけてるこの葉のまひく まの柳 実雅  
まらうてそててそちちま跡乃ちあひの乃ち柳のいと ぬ往  
きこれめちあてていむさあちらるる川うひ柳もくまらひ 吉祝  
おるひまきちてのちやうくしむむ乃のさうひ乃ち柳の衣 寧西  
あさしうれあうーやまよふ旅人のまきこのとらうまひく まの柳 龍朝  
お母これ約川とあては信川の乃ち柳乃ちひくけと 行家

乃のふちねと云一古柳まはははえそびこそくまらり 成茂  
川辺わむうひの乃ち柳あそひうらうてまきさうり なる 隆祐  
ゆとちてあうーあふ柳つらもあひくけをえらる なる 禅信  
風吹はなのまの柳やまひまみりたんこらまのたぐれ なる 吉舎  
永向よあしきあはれは風のらふえらくもあはる柳陰は なる 梅栄  
乃の乃川そひ柳まはれにちよめ人の袖ようけけく 師  
梓板のよそも乃あはれまねと乃のまきよまきよとてらる なる 小室相  
なひくたあててまうけていようちもくくるるまきよまの柳の なる 俊成女  
あなのもやあはれをそらむむ乃の乃ち柳まはれ なる 但馬  
介りえーあなをわろとまらりら行てまらうらまの柳のいと なる 下野



春雨

春の雨はよき雨とされぬも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 道助  
 といえやまをよき雨とされぬも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 実氏  
 竹男りくも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 基家  
 徒よあつぬと云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 友良  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 基良  
 里と云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 隆記  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 友友  
 天角のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 云相

春の雨はよき雨とされぬも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 実権  
 あつぬと云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 ぬ陸  
 あつぬと云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 志親  
 やと云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 宗西  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 隆朝  
 かつぬと云ふも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 行家  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 成茂  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 隆祐  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 隆信  
 春の雨のちかづきも春雨のちかづきもよき雨とされぬ  
 言若

まのぬらうにさすまへんうらみのことしりいを深ふし  
いしこくしゆのほははらまうけしあめをさる 卽  
ねきもまぬ孫もせねよのよこりうにぬあうくすすの種を 小室相  
神もさるまゐのさるやねにぬあめあひる家やしくんむ 俊成女  
まに雨のみのの神杉しらすれとけもうひるさあけし 但子  
のしるるみよはれちとちうぬふまのまもちりむ 下野  
さる魚

若草

わくねさよはまゆもむるのこころ一海のさるれさうくは 市裂  
けおれいらり流を後りしそのくれさも神のこころは 通ゆ  
まののまもさるこころさるさるさるさるさるさるさる 実成  
かめ

炭のこ細かあどりのもさるまもめあめあめのことくは 基家  
ゆそちてゆくもあはぬゆあめあめあめあめあめあめあめ 家良  
むすのこまゆえさるさるさるさるさるさるさるさる 基良  
みよのこ村きりこころさるまもさる下ゆさるさるのれあ 階親  
まうれにねあうけこころさるさるさるさるさるさるさる ぬ家  
うさまそこのまゆいこころさるさるさるさるさるさるさる 実雄  
日乳さるさるさるのまぬ村借さるさるさるさるさるさるさる ぬ住  
みよのこまゆさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 志祝  
まのまもさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 岸西



つはむよれ月のうつらもよるより光とむしうらひびらう  
おろよのるよこそとれ山のをのちれりやある月け云相  
詠れいね人まこもまはの月こそうそそふのめ  
大いよううらね月の新もねまのやふひとくすむがな  
ちるうさそねふしめとそそしうけある月のよれ流  
おむよの月そとめとこそとけふあそつてさ  
まに流らものふやくのふむまもすすまはよ  
所つ風も吹けあまのおすむこもれ月のけむ  
ね月さこまのふひの月とまもものうらそ  
まのよれまもむめえまもくもそある月ハ  
陸祐 成茂 行家 伊初 策西 志祝

月影の青のまよとてつらとてうらむ  
忠出るまは若れはさこころひらそさこころなる  
ぼりそりのこころまのえおほ月よもよそ  
いし又まほまほさみ山ようあつたあまのよの月  
うけむよれもあつらる新うそ月よをそとて  
詠れとこころのあつたあまのよの月 俊成  
位且いね同人あれる月影の流けるもね者のさし  
めりあふれまもそふよまよれうらう流るもまの月影  
下野  
何あつしよまりれてし人のれてうらるあつたあまのよの月 伊初

返原

鳥居の山の上よりさき、ぬきつらつらぬるうりね 道助  
ころぬまうらうらひさきうねをぬらつひさきまのみは 実氏  
すす衣けぬす山のおるようける川やまの下の 基家  
まゝのやのちとくもねてもねらふちさきまのうりね 家良  
志のちれまの衣まぬひさきこゝねてやうらうりね 基良  
秋風よまよひかへし一室のまらうらまきひまはらう 隆親  
森風よまよひまうらひあしこりちこらまぬてぬ一室 為永  
くれぬらいつひまうらつと白まをまのキウリ一室のまら 云相  
うらひのうらぬまらうらつとひさきまやままひままのうり 実雄  
おまのまらまらうら一室のまらうらつとひさきまら ぬ  
ぬ

のまらまらまら一室のまらうらつとひさきまら 真観  
いづつまよひまらうらつとひさきまらうらぬ 年西  
志のちまきひまきまらうらぬ一室のまらまら 隆親  
白まのまらうらぬ一室のまらまら 行家  
いづつまよひまらうらつとひさきまらうらぬ 成茂  
おまらまらまらうらぬまらうらぬらうりぬらうらぬ 隆祐  
らまらまらうらつとひさきまらうらぬ一室のまら 隆行  
まのまらうらつとひさきまらうらぬ一室のまら 隆行  
つゆまらまらうらぬ一室のまらまら 隆行  
えれとあまらぬまらうらぬまらうらぬまらうらぬ 隆行

くろなるはるはるふりてりかむとめぬえらふくらしむ 小室相  
たれのまやあーさぬ了秋いふらわーあむれとむ 佐成女  
雲のこくれやえこーりねふむよこまふてあふらぬ 但馬  
恨りやまのくさよあやれに忘れぬねとあふらぬ 下野

初む

いとやも春のほろあまらうもあ人のこころもくろ 卯製  
咳せむ指すなまきむのきこんくけてあるをうま 五物  
あまの物もほろあうりあまるともやられむまの本比也 実成  
はあとのねらうりえの神せ山あまこよやふねむのいらま 基成  
よのねのぬよらうひてあ川のたのへ乃様あそあまらう 辰成

あまのねのね乃白うり人のあまらうらうひくもあ 一基成  
あまそわらもそや川よはあまもあまといひあはれを 階成  
とくうまのね乃まきまは一様あらむのあま ぬ成  
ちるよらああまもまきまらういふようまあうあまの初 さくし 云相  
あまのさうりいひるあまらうあまのむとらあま 実成  
あまのあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう ぬ成  
あまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう 志成  
あまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう 岸西  
あまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう 絶相  
あまらうあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう 行家

今更からぬるものもさへせりや此のときもまの物 成茂  
さきまにとせりた極むのうらねるる色うまきく 隆祐  
月夜にさしきりし極むまねもいと人もの 隆信  
よのひまはれしものもまねはらとつちあまのまのほろ 高名  
さうにまらりやとうていとしと繋一人のみあまや 楠景  
みまうつるまきしそもれは川の山乃初むや極む 仲  
宿もちねぬものとのつふりり乃人まよをてぬ 山重  
まもたうむも極の時うとやまきよう白あうつかまの山 俊盛  
とあふに木のまに花のほろりりはるもまね原の白も 但る  
なまよりにのたに凡る白なるもまねあふしと古の山 下野

見むし

多とてさしきりし極む何そにむとあこ物とあ 御製  
山極りの人まもあふしとせりぬものさきもりりり 道助  
今もよもよとせりたの人乃あうまも下れぬる 実成  
わあつて目さきやとう本の山極む乃まう元はうらあ 基家  
まにた目れむらうらとまの山みくくああぬむのまが 家良  
此所ものさきまよあつてそにむうむむにうらなま 基良  
限るまはよりうらまのまのまのまのまのまのまの 隆概  
あいたらのようこるま山極まきぬるむよえやハあうら ぬ友  
みでのまあもまよまにるま白まのまのまのまのまの 云相





少のまゝなるよりしとむゆりててもあらねむいづねまゝな 基友  
何のまじられもあさましむをりつらる月のころなる 家良  
らる徳いおちひるさの徳まゝをむらあきさむま 基良  
ちよふかきささきといひむ流人のたすのくさしあふれむに 隆也  
よやらふ人にしりあそむさうり成さむくまおてくさむ 乃友  
後よひしとておてぬさし徳を向くま乃いひし 云相  
いよ徳おてりさしむむあぬあしむ乃をやまむ 実権  
れくさす流の徳まゝ流ものころあむ此考そしむを 為經  
留ましく仏のおとしむらひてくあさしとむ徳か 吉観  
ねふあしむの徳のあしむあぬあしむの徳も 宗西  
あふさち

みよのやまあふらふは徳うらうらむにむの徳まきる 経朝  
きもろも徳うらうらむは徳まのくしとたむとまのりむ 行友  
るれきつるくさの徳まゝとくさくたふらままうい やる 成茂  
ぬよしときまのうらうらむよりこれいつのむさむむ 隆祐  
くさしとて徳あふむ徳さうらうらむの又向あらむ 祥信  
らあ徳たむいれあむ風ふりトよのまもまぬむの情く 吉倉  
いらあむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ 松寮  
ちむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ 柳  
ちぬらうむむの徳やあむらむむむむむむむむむむむ 山掌相  
らてもあぬかむむの徳の徳をれくれもをてぬむむむむ 後成友



オヨウてむとも何り帰す又こむきありまやに 福信  
一そらよぬもふみかかたううあまにむのむと 吉倉  
うろめとあふあまのいしむあむむもむもむ 林奈  
しむもくうしむむむむむむむむむむむむむ 神  
務むむむむむむむむむむむむむむむむむ 中書  
まむむむむむむむむむむむむむむむむむ 後成  
咳ううすむむむむむむむむむむむむむむむ 但  
信ちを編むむむの本平不飲くむむむむむむ 下野  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 下野  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 下野

今ハキこしらぬむむむむむむむむむむむむ 佐伯  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 実成  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 基成  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 泉良  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 基良  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 基初  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 為成  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 云成  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 実成  
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ 為成

山嶽いづるむくひまき<sup>きり</sup>きり<sup>り</sup>のあまつるむ<sup>む</sup>ほ<sup>ほ</sup>い 貞乾  
とあつとあつと<sup>と</sup>た山嶽<sup>と</sup>の衣<sup>い</sup>り<sup>り</sup>さよ<sup>よ</sup>はし 彦面  
と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>指<sup>さ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>れ<sup>れ</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>お<sup>お</sup>務<sup>む</sup>る 徳嗣  
衣<sup>い</sup>者<sup>者</sup>も<sup>も</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>々<sup>々</sup>り<sup>り</sup>又<sup>又</sup>何<sup>何</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>人<sup>人</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>し 行家  
久<sup>く</sup>方<sup>方</sup>の<sup>の</sup>え<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ね<sup>ね</sup>者<sup>者</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>木<sup>木</sup>下<sup>下</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup> 成茂  
い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>嶽<sup>嶽</sup>と<sup>と</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>一<sup>一</sup>何<sup>何</sup>の<sup>の</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>る<sup>る</sup>む<sup>む</sup> 隆祐  
み<sup>み</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ち<sup>ち</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>風<sup>風</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>む<sup>む</sup> 隆信  
ち<sup>ち</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>む<sup>む</sup>も<sup>も</sup>ね<sup>ね</sup>者<sup>者</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup> 吉倉  
嶽<sup>嶽</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ね<sup>ね</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>と<sup>と</sup>ち<sup>ち</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>ち<sup>ち</sup>れ<sup>れ</sup>た<sup>た</sup>え<sup>え</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup> 相宗  
吹<sup>吹</sup>風<sup>風</sup>は<sup>は</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>庭<sup>庭</sup>の<sup>の</sup>ハ<sup>ハ</sup>ま<sup>ま</sup>嶽<sup>嶽</sup>候<sup>候</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup> 師下

あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>み<sup>み</sup>て<sup>て</sup>え<sup>え</sup>や<sup>や</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>山<sup>山</sup>嶽<sup>嶽</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup> 小峯相  
は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>嶽<sup>嶽</sup>の<sup>の</sup>高<sup>高</sup>と<sup>と</sup>風<sup>風</sup>の<sup>の</sup>吹<sup>吹</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup> 後漢女  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>者<sup>者</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>神<sup>神</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup> 但る  
大<sup>大</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>教<sup>教</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>指<sup>指</sup>り<sup>り</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>て<sup>て</sup>下<sup>下</sup>野

籬歌冬

候<sup>候</sup>む<sup>む</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>ね<sup>ね</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>山<sup>山</sup>嶽<sup>嶽</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>田<sup>田</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup> 水裂  
ま<sup>ま</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>神<sup>神</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup> 乃師  
こ<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>候<sup>候</sup>む<sup>む</sup>山<sup>山</sup>嶽<sup>嶽</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup> 宗成  
お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>き<sup>き</sup>籬<sup>籬</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>に<sup>に</sup>候<sup>候</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>ね<sup>ね</sup>山<sup>山</sup>嶽<sup>嶽</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup> 基成  
う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>籬<sup>籬</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>に<sup>に</sup>候<sup>候</sup>む<sup>む</sup>山<sup>山</sup>嶽<sup>嶽</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup> 家良

昔よりまうささるる山吹といぬ色とや同人(と) 基良  
戻さうに龍よといまをこのまうささるる山吹のむ 隆親  
山吹のむといぬ色をよめまのまうささるる同人(と) 為家  
とといぬ人づけをや我者の舞。句あやの山吹 云相  
とまれといぬ色をさるる山吹のさるるまうささるる色 実雄  
きえみよと龍うらむひ龍成くらる。原の山吹乃む 久能  
山吹の戻そむむぐりれてやるさまうささるるあれおむ 志能  
うこといぬれりさるる山吹のむのまうささるる花といぬあや 宗西  
飛うとや感さる我者のまうささるる山吹のよとむ 姫相  
をあら人ともまてといぬ山吹の(と)戻さるるのまうささるる 行家

とまれといぬ色をま山吹のまうささるるやまのささるる 成茂  
山吹のま候むのまうささるるささるるささるるささるる 隆祐  
折そつて枝もといぬ候にりりよめれ舞のさるる山吹 隆行  
いぬ色よまのささるるやまのまうささるるささるる山吹のさる ち念  
とやといぬあつてといぬや山吹のむ乃龍小まのささるる 出原  
とやまのまうささるる山吹とほまうささるるささるる同人(と) 作一  
くれぬといぬ人もまままうささるる山吹のむのささるる 万葉  
いぬ色のむをささるる山吹のまうささるるささるるまの 隆親  
山吹のむをささるるささるるささるるのむのささるる 隆親  
山吹乃をままうささるるささるるささるるのまうささるる 隆親





どのつゝ今に流の園のよやとまなぬまのういふいふ、  
 行求  
 今更どつゝいふもまのあいのるまのこれる  
 西臣  
 行とまの流いあいのまのまのまののどこれこれ  
 階祐  
 行まのいふもあいのあせしあふるいふいふのぬ  
 祿代  
 嵐吹山のりたあまよひいああまのまのういふ  
 高倉  
 由せしういふまのまのまのまのまのまのまのまの  
 如原  
 又もこむまそと今にまのいふまのまのまのまの  
 申  
 今の日もいふのいふまのまのまのまのまのまの  
 申  
 まも又行いふはるまのまのまのまのまのまのまの  
 徳田  
 大井川いふはるまのまのまのまのまのまのまの  
 但  
 くれたつゝいふのいふまのまのまのまのまのまの  
 下野



第十首

前首

新玉乃年とうさねてうはれと粧ひとるる甚衣哉 御製

世るともまうひ 白雪の侍もくさ川ももる 道助

のうららち山くれの玉梅なまふ所と粧やいとむ 実成

こらきつるとと山多の乃玉梅かこまふぬまやのいなる 基家

まことのわしみし梅なる衣うらむをやくこけるる 家良

まきのこ人に志のこ卯むのうけこらぬてなやまねと 基良

皆を袴めを梅しむのさるるこみもさふぬ衣うらむ 階成

なまてはこひとぬ衣ぬいそりまよとまふららむのぬ

まづららぬお卯の根とや神乃んむり神をん 公相  
りかしてやちまんのるおあまぬてきくるまのぬ衣 実雄  
あうらうしむのうらうのそまのこしやねのるむ 為徳  
まもまゝかたきまのついでついであまの神  
りゆいあまのぬれ乃月九神と神の祐もぬるむり 実西  
あつらひてくもまき衣まそあまのぬるむり 徳朝  
神象よく月あうらうけいしむりのぬれ神象 行家  
るまねとら斗とまねねらぬ神やまきしぬまむ 成茂  
まねまのぬれ白まきとまのぬれまのぬれ 禪信  
むのりらうまぬー神と川てひとくしそくまねぬ 高倉

その根乃永日斗くしむらふてまらぬらぬてこのぬ 徳祐  
あまのりもむかろしむらふてん社のぬれまのぬれ 梅峯  
まねらぬ者まのぬれ神とまのぬれ人の者まのぬれ 神  
むかろの神はまのぬれまのぬれまのぬれ 小室相  
あまのぬれまのぬれまのぬれまのぬれ 俊成女  
まのぬれまのぬれまのぬれまのぬれ 但子  
あまのぬれまのぬれまのぬれまのぬれ 下妻

待郭公

あまのぬれまのぬれまのぬれまのぬれ 山梨  
一まをたやあまのぬれまのぬれまのぬれ 乃脚

新古今のころのまのまの月とまりとるのまのまの  
実氏

出でぬとまのの山は山をのちりてつねなるらむ  
基良

とこころのまのまのまのまのまのまのまのまの  
家良

部は神をも今ら侍はる國りやとのまのまのまの  
隆親

あひまのまのまの卯月の時を人のまのまのまの  
み家

實のまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
公相

これらまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
実隆

何のまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
め家

神のまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
よ家

よのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
実西

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆親

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
行家

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
成茂

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆祐

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆信

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
実若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若

ねのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
隆若





くらきとれは田んぼは田んぼの田んぼは田んぼの田んぼ  
 ままねと一石田のいもねねねねねねねねねねねねねねねね  
 のりもく田んぼは田んぼの田んぼの田んぼの田んぼの田んぼ  
 ままねと一石田のいもねねねねねねねねねねねねねねねね  
 ここのいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 ままねと一石田のいもねねねねねねねねねねねねねねねね  
 目るれいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 川もねのいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 おもねとむろのいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 今もや子苗とらふいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 梅察  
 音若  
 禰信  
 隆祐  
 成茂  
 行家  
 隆朝  
 宗西  
 吉親  
 為経

是川のいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 ままねと一石田のいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 比田のいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 早苗と一石田のいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 おもねとむろのいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 下野  
 但馬  
 後成女  
 小宰相  
 師

候五月雨

谷川のいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 初也山とのれち月乃やととついでいもねねねねねねねねねねねねねねねね  
 五月あふくやとねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 おもねとむろのいもねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねねね  
 基成

かきあやしされくれぬそめの

家良

かきぬれをさるるこい谷風にまもあいうく人

基良

旅人のぬかきすぬまうし細谷川のた月ぬのころ

梅紀

あまきる谷のむねれ本根とてさそりれゆるわ月ぬ

ぬ家

谷川のつとまは氷らうりこそまきまうりぬ五月ぬれ比

云お

谷川乃ぬしあのをきつこい浪そこころ五月雨のころ

実雄

田殺してあまきうりちか月ぬなれよりまそあふい

ぬ佳

いこくひよとくせくれ一そああのかうふるうりぬ五月

志紀

うけつる谷のらあつのかいよりまもるうし五月ぬの比

市西

ち月ぬぶもの谷川ぬいこて浪にちぬぬきこのころ

源相

五月ぬのころあまきぬそひて思浪こくし谷川のあ

行成

五月雨のころたかれと谷川の思を水に山せうらう

成茂

谷川のまうをぬ氷にあまきうりまうりひるうりち月ぬの

随祐

るれそあ山のきれ五月ぬあまきまうりし谷川のあ

輝信

ち月ぬのころのうけぬぬしつてもきこもこしぬ岸のぬぬ

吉倉

そ花のきうらあまきうりうらぬのわらぬあるれま

梅宗

ち月ぬの思まうらぬぬるわらうらまを杉ぬしひ谷のぬお

陣一

いり年谷の思うきあつこい川着こころかりぬれ比

中兼

谷屋やふふまれの思ぬも水うら

後成

さうてたは日影をうらうら谷のたぬかまうらぬかりぬ

但る







みしりよは月とやとせに夜をうすも影の何とてなるを 麻西  
ま山のもるやうくく影をいひすうく月の子を移る 龍神  
夜と秋とけおとをささるぬいそなるよりくる月はいく 行旅  
病つとあゝいゝの世乃まもあうねもる夜のは月 夜  
よひのまをさういゝよあまなるうづむとこれぬる月子 夜旅  
しあつて月のあまをいゝういゝなるいゝあまのたまは 神信  
まほさ積と月のありひのこがやとるうよりを後か 高倉  
月こそも思ふうも夜の上れういゝあまの今こそいゝく 世高  
夜の上は移るいゝあまの光とて月こそ人やいゝゆめ 中  
おるれがいゝあまの影とて月のたまはあまのたまは 山崎  
ま

影やとまうしあまのたまはあまのくもるくまもあまのたまは 後慶女  
よいゝあまの影とて月こそ移るあまの影とて月こそ 組馬  
まはあまのくまも天川なるうづむとて月とてく人たうな 下野

あまの影

山あひだきうてあまの影とて月こそ移るあまの影とて 山梨  
花雲清ねともあまの影とて月こそ移るあまの影とて 足助  
下くまいあまの影とて月こそ移るあまの影とて 実成  
まよたせよまもあまの影とて月こそ移るあまの影とて 基成  
みこもりの影のいゝくまも移るあまの影とて月こそ移る 基成  
は雲よりよまもいゝあまの影とて月こそ移るあまの影とて 基成

流しきもよしと云にのたまふはよしの言ふを 隆起  
もあふ衆にの言れよまも申れやわらまゝなるし 西  
馬川の下の乃きいよま(新)なるしと云言ふ 云相  
ふやふあつと云ふちまのすしと云のひつらま 実権  
あつと云ふしと云ふのよなるしと云のよと云 ぬ能  
なるひつらまやまと云りし流りあつと云言ふ 吉範  
いよまにゆ(し)る衆のつしと云に申する言ふ(し) 寧西  
まふと云ふ(し)のま(し)ま(し)ま(し)のま(し)し(し) 隆期  
くれぬる流はぬる乃(し)と云(し)と云(し)と云(し) 行衆  
くれぬのま(し)ぬる(し)と云(し)と云(し)と云(し) 成茂

いあの流に流る衆とてよるのま(し)や言る(し)し 隆祐  
くれぬま(し)と云(し)と云(し)と云(し)のま(し)と云(し) 禪信  
くれぬよ(し)の流のま(し)と云(し)と云(し)と云(し) 之舎  
い言はぬ(し)の(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 隆安  
名九川いよま(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 一  
くれぬ(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 小峯  
流(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 隆成  
と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 隆  
と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 下野  
と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し)と云(し) 下野

クノミ

うらふふたまたまふたまたまのさしづめ  
 日とてつらふのひろきよはほのさかたをくたまの元  
 山とて指あききりまきとさかのあつたまのくも  
 陸海船父まきしほのまのあつひびくも  
 見こしつらふのまきくまの丸とわまつるあまのほ  
 片日<sup>山</sup>乾つつらふえらふふとさかたをりつたまのあ  
 床のくろ目般もまきつたまのまきとさかのあ  
 山本のまきつらふ日乾つつらふとさかたをりつたまの  
 ねまのねとねまのあつたまのまきとさかのあ  
 このまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 折れひく社の本のまきとさかたをりつたまのあ  
 ぬをのまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 とれぬまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 夕まきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 夕まきの雨まきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 夜山のまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 木のまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 浪しぬまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ  
 うらふふたまたまふたまたまのさしづめ  
 夜のぬまきとさかたをりつたまのまきとさかのあ

津梨

道師

実成

基成

家良

基良

隆規

あぬ

ふお

室雅

ぬほ

ま記

第西

臣初

行取

廣成

津記

津行

ま成

物原





秋三首

早秋

風の善い像がらふれはるあやーととつら秋のまらり

御製

中よまらもとをともとやいこの善い秋のまらり

道助

此のまらもあまらい秋のまらり

実氏

も乃秋のまらり

基家

白あは神を涼まらるる秋のまらり

家良

秋まらりとのまらり

基良

掃まらりとのまらり

階紹

白あもつまらりとのまらり

み家

いそやもさへいさうさう高ぬまのたはに秋やまらひ  
 吹そめていくもあな秋風よいと秋の<sup>神</sup>たれくるん  
 蝶のをれ栞もはまきなをさうらうとをさうら秋のまにりり  
 何ぞぬまたさり一妹をね誰他よりもあけりり  
 友をよきうよふにたれとたはゆるたの秋乃神風  
 吹風此秋たれあもやうけつとむのさうあふまらひさうら  
 あふたふよとさあけらるるのいさるせりや秋のくさひ  
 しのまた秋いまあふとむいさるのあふけり乃風もさうら  
 本をさうら秋の初れとりりもさひーさやとの便をさる  
 秋としにいよあふむはるもらうらあふむ下風  
 言倉  
 栞察  
 師一  
 山崎  
 俊成  
 但  
 下野  
 吉観  
 兼西  
 臣相  
 行家  
 成茂  
 隆祐  
 禎信

肉の香とおもひきしひいひたさうさうもや秋まねむ  
 栞まねとさへいさう思きよさうあふらあふらせえ  
 ちりけいさあ吹風のさどむいさるる栞乃さうらるる  
 秋まねとらあ斗成流よりあふらあなあふらあふら  
 けらるるあのみあきにてさうらわて神まら家秋のあふ  
 白あいまさいああなぬさうらぬの神をさうら<sup>吹</sup>風のさうら  
 栞まいまささうらああをさうららうらうら日ねら秋とさ  
 下野

と巧真実

七々よりうらうらあふらあふらあふらあふらあふら  
 七々のあふらあふらあふらあふらあふらあふらあふら  
 九製  
 乃助



白雲のわたとてのむけしと庭よりく秋の灯 実氏  
ちいよのわいやるふび星の秋のあひさゆりあは 基家  
七夕の庭は灯をむけつ天の河原ふかきくもを待 家良  
ひこ星のまつ光やうらむし庭より下向る灯のけ 基良  
華とつてとる七夕うらぬあのもろ光とを庭の灯 物知  
七夕のあひに何と白雲をせまのそくもあいにしき 実家  
宵のまつに天の川をむしこもるやと教くまらる庭の灯 三和  
七夕よりこむらるこものりどちかぬ舞のこりてさし 実雄  
百あやな庭の果作よもきくも待する星のえ る原  
あひのこもりのそくもみしきしこのよの標に今夜り 六純

つるまに庭の灯をむらそて七夕まつるよにまらり 実西  
庭もわたこものひこむら灯やたぬ星の光ゆと 源朝  
七夕のまつ待ひのねをい句とりも庭のそくも 行成  
まつらうもえたいふぬも句むむと井まつるそをえ 成茂  
七夕の神の句やまもるこむ庭かしつるよにのなうと 伝祐  
いせいぬの標よふもせ夕れやの光や神は句ふむし 神代  
七夕のあひよれしこく文ねれしむしけはようあにぬ ち全  
七夕のちとりまに庭のあひこぬあのをくはやそくも 実家  
今こそい庭のそくもた文のたて七夕のあひはあふるら 申  
併はを七夕つちがをいよのちよよとよしはにぬこりち 山家

星谷のえんくも物や自らむとくもはよしの花よ 後成  
星谷のえんくも光やまさるむむ新ももよぬ庭乃灯 他も  
星谷のえんくもむむむむその上もさやくたこもよあ灯 下節

萩風

たのちおへんあさよにも秋風のうよとあさく<sup>がらう</sup>の萩京 所製  
あさよよれやさうあくもあももよぬさめどりの川萩 乃物  
あさよとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 萩の上も 実成  
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 萩の上も 基成  
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん 萩の上も 基成  
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら 萩の上も 基成

萩風くよみ何と萩のさよは萩風吹りまうこ萩京 乃物  
さうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 萩の上も 実成  
さうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 萩の上も 実成  
物とつまももももももももももももももももももももも 萩の上も 実成  
えけり又萩の上もももももももももももももももももも 萩の上も 実成  
くまももももももももももももももももももももももも 萩の上も 実成  
くまももももももももももももももももももももももも 萩の上も 実成  
くまももももももももももももももももももももももも 萩の上も 実成  
くまももももももももももももももももももももももも 萩の上も 実成

申くはあつたふのふも大なるやさる花のふは  
 吹さる風もまね萩のふはあつたふのふは  
 りもきく萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 吹さる風の上乃なるもあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ  
 吹さる風もまね萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 とらうる萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ  
 人ハこねよに花はあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ

萩のふ

白きもこねよに花はあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ  
 吹さる風もまね萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 りもきく萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 吹さる風の上乃なるもあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ  
 吹さる風もまね萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 とらうる萩のふはあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ  
 人ハこねよに花はあつたふのふはあつたふ  
 萩のふはあつたふのふはあつたふのふはあつたふ

御剣  
 乃如  
 実成  
 基成  
 家成  
 基成  
 階成  
 乃如  
 乃如  
 乃如

秋萩のむし候しつりあまきのへ本下あれまうぬまえ  
 萩の上にあも限ののこれれにまうつりゆようのまうつり  
 ともあまるまもあると萩のまをまなうしる萩のま  
 と萩のまのこのまうつりひてあまの萩のま  
 秋萩のむし候のまぬまのれ萩のまのま  
 萩本のまゆまのまの白萩あれまのまの萩のま  
 ちりちりまのまのまのまのまの萩のま  
 白萩のまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 白萩のまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

為臣

まね

常西

信朝

行象

成茂

隆祐

福信

まね

柳原

師

後成女

山本

但る

下野

秋夕

秋夕のむし候しつりあまきのへ本下あれまうぬまえ  
 萩の上にあも限ののこれれにまうつりゆようのまうつり  
 ともあまるまもあると萩のまをまなうしる萩のま  
 と萩のまのこのまうつりひてあまの萩のま  
 秋萩のむし候のまぬまのれ萩のまのま  
 萩本のまゆまのまの白萩あれまのまの萩のま  
 ちりちりまのまのまのまのまのまの萩のま  
 白萩のまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 白萩のまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

仲製

乃助

実代

基辰

夕ぐぬれに哀さひしるる文は秋こそ人よ早しすの 家良  
 大さこにりふようきるる哀たこつらうり一の後さうしる 基良  
 秋風のうみーみこさるる文は秋こそ人よ早しすの 隆純  
 月のこきといとりささるる文は秋こそ人よ早しすの みか  
 おくふよこきそぬれそぬれさるる文は秋こそ人よ早しすの 云相  
 日さゆのぬるや何れうしそと秋の夕と流さるる文 実雅  
 ねはつらぬ何れも秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 み絶  
 世中にささるるも秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 吉純  
 秋風のきこもさるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 吉純  
 まる人のあふに物やうきぬまー相のそさるる秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 隆純

夕ぐぬれに哀さひしるる文は秋こそ人よ早しすの 行家  
 日さるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 成茂  
 地にさるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 隆祐  
 るうくよさるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 禅信  
 物とさるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 高若  
 ささるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 梅宗  
 ささるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 師一  
 おくふよこきそぬれそぬれさるる文は秋こそ人よ早しすの 小掌  
 これもさるる文は秋の夕とそもつき後乃あらまきさるる文 俊慶  
 詠らひぬ我やとうらむらむらと又さるる文は秋こそ人よ早しすの 但馬

泳れに秋の夕の光をよみあはしむもとこりりりりり 下野

神原

あめと雲あうれ初アのちうらまはるききこるこ 仰裂

秋とつら風の使いしここのもよさうたのいさ 道卿

つまねの所れ野あふて秋よるやし初うり入集 実氏

秋まききこさうらくに羨あつてみせさるよアハきな 基友

まゐるらるともきなねアまよふまきこつて秋まよさる 家友

かふ秋もるとくこーちうら秋と旅とらのまきこ 基良

今文にうられけりあ光ゆしとまきけり初アのあ 階光

ア念に今笑か之秋見まむこささむく吹まきるやめ あり友

秋の夕の光をよみあはしむもとこりりりりり 公相

あめと雲あうれ初アのちうらまはるききこるこ 廣雅

秋とつら風の使いしここのもよさうたのいさ あり

つまねの所れ野あふて秋よるやし初うり入集 高野

秋まききこさうらくに羨あつてみせさるよアハきな 岸西

まゐるらるともきなねアまよふまきこつて秋まよさる 恒朝

かふ秋もるとくこーちうら秋と旅とらのまきこ 行旅

今文にうられけりあ光ゆしとまきけり初アのあ 順成

ア念に今笑か之秋見まむこささむく吹まきるやめ 階祐

秋の夕の光をよみあはしむもとこりりりりり 禅信



後男から夢をすさめる山田のひこの人まきよとて  
つをQのすそにれ田井のなるを  
川へ一羽さうへ、我にのこさへあつちと出なる  
りさるぬいとくのかさへおとらへり  
ゆゆの田向の落れうらとらるるにさあきあぢり  
するやうにせとてなをきりるにさあきあぢり  
しまにゆゆは秋のともるにさあきあぢり  
しまにゆゆは秋のともるにさあきあぢり  
ととらゆへんまきよとて秋のよらうおれひこのとて  
世にゆゆは秋のともるにさあきあぢり

申西

河朝

行成

成房

隆祐

祐信

玄名

徳宗

師一

出光

山田のしほある後乃秋の袖やとくあえとまきあけける  
これと又秋のあやゆゆのしほある後乃秋の袖やあえと  
妹くれにちあとりさこのうらしちとつれうまのあえと

後成

但る

下野

夜康

一人の袖もあけりさよえつまきあけけるにさあきあぢり  
今も夜丁を恨もまきあけけるにさあきあぢり  
とらゆゆのあやゆゆのあやゆゆのあやゆゆ  
秋のあやゆゆとらゆゆのあやゆゆのあやゆゆ  
まきあけけるにさあきあぢり

伊梨

道助

実氏

基家

宗良

基良







春もさそへんせぬ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
家ある思ひの原にまゆりの花やせしむ  
鳥ねと別な思ひの原にまゆりの花やせしむ  
遠のきつしむ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
かへていへば思ひの原にまゆりの花やせしむ

山月

しほの原にまゆりの花やせしむ  
月よこがれとせしむ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
天つえきよれ夕の秋風よれ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
山つらふ思ひの原にまゆりの花やせしむ

秋もさそへんせぬ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
さの原にまゆりの花やせしむ  
時こゆるこもか人の思ひの原にまゆりの花やせしむ  
まぐさる思ひの原にまゆりの花やせしむ  
くれぬたよる思ひの原にまゆりの花やせしむ  
君うさむ思ひの原にまゆりの花やせしむ  
ひさし思ひの原にまゆりの花やせしむ  
湊川思ひの原にまゆりの花やせしむ  
あのを思ひの原にまゆりの花やせしむ  
山つらふ思ひの原にまゆりの花やせしむ



天第月さくころの秋のよたもよもひるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
やまのいしあなまよらるるさくものいし  
秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし

公相

実権

めゆ

志観

年西

後羽

竹夜

成茂

海祐

源信

岸山くもむ杖のなるれい老とみうさくものいしあな  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし  
さくもの秋のいしあなまよらるるさくものいし

高倉

按察

帥

小室

後成女

但る

下野

野丹

道助

御製

こまに... 実成

ま... 基家

... 家良

... 基良

... 徳也

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

... 実家

家よとやものえしてゐる夢に月をたぐるあまのあ  
杖とてあふくもろへいなるもて月をののこしとれ  
よへいよとあふくもろへいなるもて月をののこしとれ  
下野

後月

さうろの月もさやうに大川をさばると杖やうらふ  
上城の後の月を流れに月のわがこころをさるまじ  
さしてはさうよめたきせうにあらはれみちころの杖の  
月をさるまじの夢をさるまじのこころをさるまじ  
らちの後の月を流れに月のわがこころをさるまじ  
川舟の月を流れに月のわがこころをさるまじ  
基良

舟にまじりのこころをさるまじのこころをさるまじ  
月を流れに月のわがこころをさるまじのこころをさるまじ  
舟のこころをさるまじのこころをさるまじのこころをさるまじ  
むいおれよとて月のわがこころをさるまじのこころをさるまじ  
久曾の桂乃川の舟をさるまじのこころをさるまじのこころをさるまじ  
流れにまじりのこころをさるまじのこころをさるまじのこころをさるまじ  
杖とてあふくもろへいなるもて月をののこしとれ  
大後のこころをさるまじのこころをさるまじのこころをさるまじ  
泉川ちもの後の月を流れに月のわがこころをさるまじのこころをさるまじ  
杖のよれ月を流れに月のわがこころをさるまじのこころをさるまじ

月をねとちりて人ぞいひまひひよるもつるぬほの川  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 志くはくは秋の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 月のはれの舟の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 志くはくは秋の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 月のはれの舟の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也

庭月

よとまねおのおい〜庭もたれ光とくる秋の月光  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 志くはくは秋の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 月のはれの舟の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 志くはくは秋の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也  
 月のはれの舟の光や坊むむ舟長の月の光をさやき  
 舟は舟長のよるくはくく月をまもるぬほの川也





くら人の園のゆきもわりこひねお坂山北お湯のまゆひは 家良  
たれすの園らへりる夕霧のころめお坂のなまゆひ 基良  
ゆきもたれもこまきりこめく誰うたれまじとこくひ 治紀  
もりの者いしきくおの園のそよあくることとぬ杜の鶴を方 お家  
もりの者いあけぬとつこまのそよたれなるこり山の鶴を ぶお  
夕霧のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
旅人のね坂山に寄こめくたれもりこまきりこめくねおくな お坂  
夕霧のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
若山お湯のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
園のそよとされと志いぬお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅

お湯のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
若山お湯のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
園のそよとされと志いぬお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
くら人の園のゆきもわりこひねお坂山北お湯のまゆひは 家良  
たれすの園らへりる夕霧のころめお坂のなまゆひ 基良  
ゆきもたれもこまきりこめく誰うたれまじとこくひ 治紀  
もりの者いしきくおの園のそよあくることとぬ杜の鶴を方 お家  
もりの者いあけぬとつこまのそよたれなるこり山の鶴を ぶお  
夕霧のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
旅人のね坂山に寄こめくたれもりこまきりこめくねおくな お坂  
夕霧のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
若山お湯のまゆひをさるねお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅  
園のそよとされと志いぬお坂山北お湯のまゆひとれ丸 室雅

四ねとてあるを國海のくひもりしむきさうつる高のあ

支那衣

よやさき袖のまじりきりくしやまき國は衣なり  
里人の多もまりくじまりしてよくくひを打らむ  
鬼使木の木陰を打りつれぬまじり着るぬふ  
湯乃天の戸偽る月影よき人さくや衣打らむ  
解めくしきさるやむきおの一本もあちす衣打らむ  
つくりぬよさむむね秋の月遊里さきし衣打らむ  
流ぬらきくむしきねたねぬちとえすつらの着る衣  
ねきあふ衣およとさむしねる人のぬき衣打らむ

よまきくしきまきさるぬきさくまのまきお上衣打者  
よりくくちつらあやの秋風やぬきむしり衣打らむ  
日きもくしきさる衣かき人のぬきこれ衣のぬき  
大さもさむしり衣のよきむしりも衣打らむ  
打らむしきまきさる衣のぬきさるも衣打らむ  
流ぬあまのさき衣打らむねぬよりとまきさる  
山さくの袖のぬきおよさきさる衣打らむ  
おきさきさる月のおとまき衣打らむ  
流ぬあまのさき衣打らむねぬよりとまきさる  
流ぬもよさきの衣打らむねぬよりとまきさる









三田川のつるのむすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
三田川のつるのむすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふた  
三田川のつるのむすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふた  
川のつるのむすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふた

九日書

あつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた

あつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
あつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた  
むすめあつたふとそとふたむすめあつたふとそとふたむすめあつた



とうとちぬ秋の白敷乃打さてしやあはれなれぬ  
 行家  
 りあつてあるらるるたふらうよよあまめくれ秋の長月 成茂  
 本花よりあつてあるらるる人あつてを秋にくれぬ 隆光  
 大弟や妹のるるのさし初山ねしむあまよすりおも  
 縁作  
 虫のまをれよりる身とくしのみあそく夕は限る秋を思しき  
 三巻  
 こみくれ乃あしくもあそゆ秋をあれたれあり教りあはれ  
 何とそらまもともあそゆ限あつてさち秋のらあまの  
 師  
 りあまよさたのつなまをうけてさたとあてもとをちや秋のあ  
 中巻  
 くれよよりるもあまのわのころあまのあまあはぬあまの秋のれ  
 後巻  
 あまよらやあまの風ままらうもあまの限の秋のあまの  
 但巻  
 秋の色よなうさけぬわらあどしりふく限とくさあま下野



